

令和7年度

徳島県立富岡東中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

中高一貫教育の特性を生かし、
生徒一人一人に「確かな学力」をつける教育内容の創造

校長

助道 和雄

学力向上推進員

後藤 弘樹

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員の相互授業参観からの報告等、さまざまな機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身についており、与えられた課題に対して既習事項を適切に活用しながら取り組むことができる生徒が多い。 ●複数の知識を関連づけさせたり、視点の異なる資料を多面的・多角的に活用したりすることに課題がある。	・学習を通して習得した複数の知識を相互に関連づけ、他の場面で活用することができる。 ・資料やデータなどを多面的・多角的に捉えて活用することができる。	・生徒が、中高6年間を見通した深い学びができるよう、中高の教員が連携した授業づくりを行ったり、相互授業参観を行ったりする。 ・生徒が複数の知識を関連させて考えることができるよう、発問や教材を工夫する。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○与えられた課題について、深く考えて自分の考えを書いたり、友達の意見にしっかりと耳を傾けたりすることができる生徒が多い。 ●複数の考えをまとめて新しい考えを創造したり表現したりすることや、探究活動などによる発表の際に自分の言葉で表現することに課題がある。	・友達と話し合う際に、意見交換に終始するのではなく、自分の意見と他者の意見を相互に関連づけながら、新たな価値を創造することができる。 ・習得・活用・探究の各場面において発表等の言語活動による表現ができる。	・ペアワークやグループ学習の時間を積極的に設定するとともに、発問や教材を工夫することで生徒同士の議論が活発になるよう促す。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用し、グループワークや発表等の言語活動を行わせる。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業に意欲的に取り組むことができ、友達と活発に議論を行うことで自分の考えを深めることができる生徒が多い。また、家庭学習にも主体的に取り組み、知識や技能の定着を図ることができている。 ●自ら課題を見つけて目標を設定し、その解決に向けて取り組むことに課題がある。また、計画を立てて学習に取り組んだり、テストの結果を踏まえて適切に復習を行ったりすることにも課題がある。	・探究活動などを通して、自ら課題を設定し、解決に向けて意欲的に取り組むことができる。 ・各教科の学習に計画的に取り組んだり、テストの結果を踏まえて、わからなかった箇所を復習したりして、粘り強く学習に取り組むことができる。	・各授業で、学ぶ意義が生徒に伝わるように目標を提示し、振り返りを記述させることで知識や技能の定着を図る。 ・総合的な学習の時間を軸として、地域の身近な課題や地球的課題を自ら発見し、その解決を目指す探究活動を行う時間を設定する。			